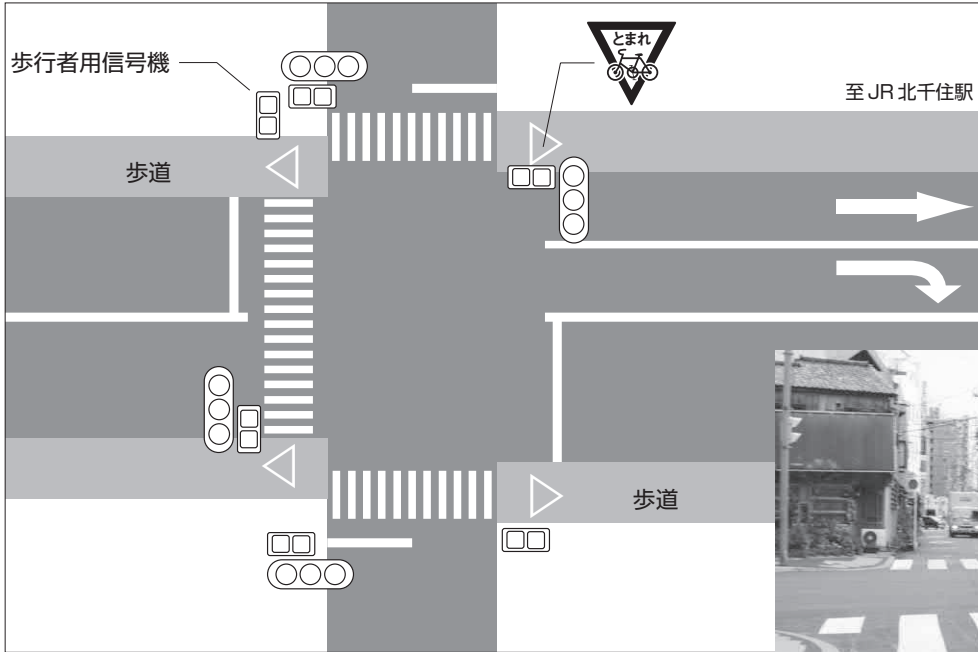
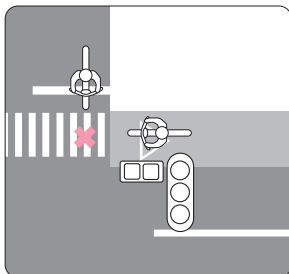


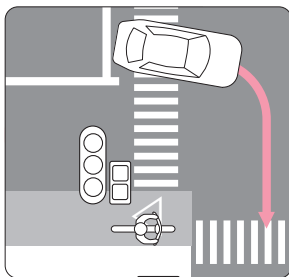
Q1 自転車利用者220人中、左右の安全確認をしなかったのは何人でしょうか？



- 観察場所 / 東京都足立区千住 中居町 28-1 付近
- 観察日 / 2007年3月15日 (木曜日)
- 観察時間 / 15:25 ~ 16:25



Q2 自転車同士が接触したところを目撃！
何が原因でこのようなことが起きるのでしょうか？



Q3 右折するクルマと接触しそうになる自転車を目撃！
事故を防ぐには、どんなことが必要でしょうか？

こんな事故が起きています

自転車事故は、10年前の1.25倍に増加

平成18年中の自転車乗車中の交通事故は、この10年間で1.25倍に増加している。自転車側に法令違反がある場合も多く、法令違反別に見ると安全不確認が全体の4分の1 (26.5%) を占める。

予想以上のスピードで交差点に進入してくる自転車は、他者から見落とされてしまいがち。交差点を横断する自転車と、右左折するクルマが衝突するというケースも多い。また、自転車同士や歩行者と接触する事故も増えている。

(警察庁交通局資料)

道路交通法

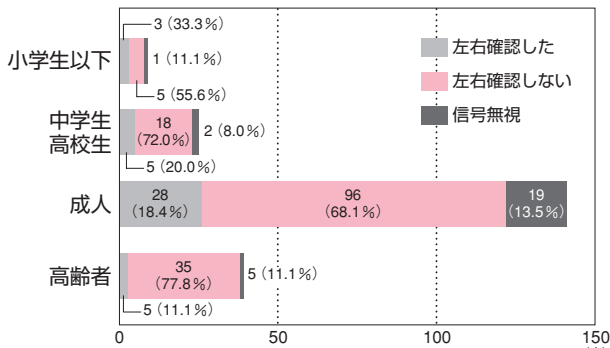
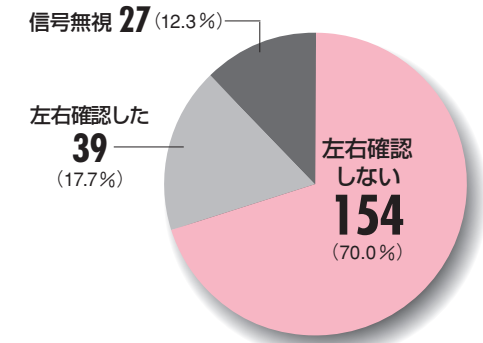
交差点における他の車両等との関係等 (法36条第4項抜粋)

自転車は、交差点に入ろうとする場合、および交差点を通行するときは、「交差道路を通行する車両等」「反対方向からくる右折車両等」「横断歩行者」に特に注意し、かつ、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。

……実際に観察しました

Q1 の解答 154人 (70.0%)

●信号機のある交差点を横断する自転車利用者の左右確認状況 (220人中)



※小学生以下 (12歳以下)、中学生・高校生 (13歳～18歳)、成人 (19～64歳)、高齢者 (65歳以上) の判断は観察者の見解による

1時間に交差点を横断した自転車は計220台。そのうち、左右確認を行なったのは220人中39人 (17.7%)。赤信号になってから横断した自転車利用者は27人 (12.3%) だった。

ほとんどの人は信号機だけを見て、左右確認をせずに交差点を横断していた。

交差点を横断中に、携帯電話を使用したり、くわえタバコなどによる片手運転、友達と並進する自転車利用者も数人見られた。また、犬を前かごに



入れてフラついて走行する成人女性も観察された。

携帯電話を使用しながら信号を無視して横断する自転車

CLOSE UP

信号無視の自転車が12.3%もあった

観察では、信号を見て一度は停止したものの、左右確認をしてクルマが来ていないとわかると、信号を無視してしまう自転車が見られた。信号無視の自転車利用者は27人 (12.3%) だった。

Q2 の解答 どちらかの自転車の信号無視

【解説】 道路交通法では、自転車はクルマやバイクと同様に「車両」として扱われる。ところが、自転車利用者の中には、このルールを知らない人もいます。そのため信号を気にせずに交差点を通行する自転車が多い。

ここがポイント

- 信号をしっかりと守る
- 青信号でも、左右の安全確認を必ず行う
- スピードを出しすぎない。特に交差点では、すぐに停止できるスピードで走行する

Q3 の解答 ドライバーも自転車も左右の安全確認をしっかりと行うことが大切

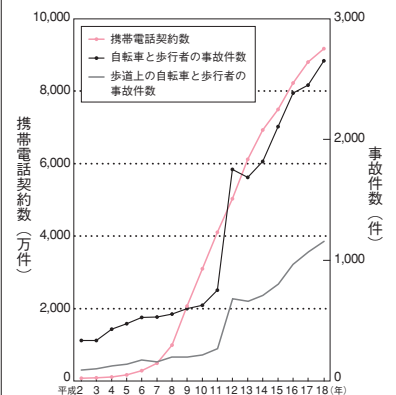
【解説】 ドライバーは、対向車がいなくなると、後続のクルマに迷惑をかけないようにと慌てて右折しようとしてしまうことが考えられる。この時、スピードの速い自転車はドライバーに見落とされてしまいがちだ。

ここがポイント

- ドライバーは、交差点を右左折する際には自転車や歩行者が急に飛び出してくるかもしれないと意識して安全を確認する
- 自転車は、安全な速度で走行する

ワンポイント DATA

携帯電話の契約数と自転車と歩行者の交通事故の推移



平成18年の自転車対歩行者の事故件数は2767件、10年前の約4.75倍である。携帯電話の普及が、自転車と歩行者の交通事故が増加した1つの原因になっていると考えられる。

(月刊交通2007年5月号より)